

診断の限界を追求するということは、診断学の基本的姿勢である。微小胃癌についての歴史は古い。何が問題なのかは時代により異なっている。現在、微小胃癌を見つけ出すことの目的は何といっても内視鏡的粘膜切除(EMR)であろう。すべての癌を非観血的治療で済ませることは、誰もがそうありたいと願う理想である。

特に分化型癌に対する適応基準はできているが、未分化型癌についてはまだ明確な基準が示されていない。微小であればあるほどEMRは容易になるが、見つけ出しや鑑別がそれだけ難しくなる。targetはその点に絞られるのは当然である。そのほか、多発の問題や、特に未分化型癌では、浸潤の範囲あるいは多中心性、癌細胞のばらつきなども常につきまとう重要な問題である。

しかし、ここで視点を変えて微小胃癌の自然史をもう少し突っ込んでみたらどうだろうか。1mmに満たない超微小胃癌から微小胃癌へ、更に小胃癌へと発育進展するまでの自然史を病理組織学的な面からだけでなく、経過観察という臨床面からの追求である。もちろん、そのためには微細診断の確立が前提であるが、今後高齢化社会を迎え、“過ぎたるはなお及ばざるがごとし”のたとえではないが、治療するほどのことはないという場合も多くなっていくはずである。それだけでなく、超微小胃癌あるいは微小胃癌がどのような自然史を示すかは、消失、静止、発育進展様式を含め、癌の本態を解明する一助になるのではないかと考える。筆者の夢想かもしれないが。

胃と腸

10月号(第30巻・第11号) 予告

発売予定 10月25日
定 価 2,060円(税込)

主題／食道表在癌の発育進展一症例から学ぶ

序 説	東京都がん検診センター	西 沢 護
主題症例	1. 粘膜癌から進行癌への経過を追えた食道表在癌	中山記念胃腸科病院 林 恒男・他
	2. 経過観察中に診断された食道表在癌	東海大・2外 島田 英雄・他
		千葉大・2外 有馬美和子・他
		多摩がん検診センター・消 細井 董三・他
		東京歯科大・外 大森 泰・他
	3. 食道表在癌疑診例の経過	東京都立駒込病院・内科 山田 義也・他
	4. 短期間で著明な形態変化を呈した食道表在癌	
	a) 増大例	早期胃癌検診協会 加藤 久人・他
		東京都立駒込病院・内科 門馬久美子・他
	b) 縮小例	東京医科歯科大・1外 永井 鑑・他
		神奈川がんセンター・内科 玉井 拙夫・他
座 談 会	食道表在癌の発育進展一主題症例をみて	東京都立駒込病院・外科 吉田 操・他

胃と腸 (第30巻 第10号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1995年9月25日発行(毎月25日発行)

1部定価2,060円(本体2,000円)(配送料124円)

1995年年ぎめ予約購読料28,000円(本体27,184円)

(増刊号4,120円を含む13冊)(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1995, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

• 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。

(担当) 竹中・小松原・江口・長谷川